伊地知文庫
文庫20
360
7

文庫
360
7

扶桑拾葉集巻第五

目録

和泉式部物語

和泉式部

扶桑拾葉集巻第五

参議従三位兼行右近衛權中將源朝臣光圀編集

和泉式部物語

伊地知氏書册

和泉式部

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

たまくせ世を見てまこの日

彰勅意一

うちへ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

彰勅意二

[illegible]

なるめつのみをく次月日ば

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

仏みこをはきすてゐつつ・ほと絶ていと絶つらな
ゐつつるなどのおとせて
いまやまとおもふ人をこひ
あいてもゐつつ・あくるとのとし
あさぼらけとゐつ・ふもしあきまきひきまふおもひほらんと
いとおつくして
ぐらぬ・ゆみとのおとこ人は夜そと
うちらきこめのあしとおもふ
絶つ・ゆみとおもひはまとほらつ・まさ月なや
ものは出ます・うつゆらはなへ
うんとゐつて

おとすとはいはしそをやめうちふり
こうしはやめの袖をまきー
芒を思ふ・うつ思ふぬ・ゆ
くるおまてゐつ・ふて・実ていとおつ
ゐは・まいてと思ふ・ほとうはうかしみをとの
ますうつ・ふて・いと・おはるまをいおつふ
はつふしとわとふしやいる袖ゆふて
いとこゆしふきこいますゆん
侍るぬ山のゆとこをもをゐふて
まをふんぬとのゐつ・ゆて

[illegible]
と聞くに、実にいつしの船にておくりまゐらせ、と
んかうしもめいせにたをみうちに月ごろの人をあはせ
て、うちまもるみ寄るふとよ、めとめをとはせ
うもるへとかく、はうつめをひとはのしと、人をもの
あるあるやとれはしえ、やとうあるせ、はた
せえて

河音さはしまたの正ちうあるう
はちふかのめ、せをみし
うはいうふしるめとおとるめと、はのとあ
ちをおうしまし寄ゆきる

[illegible]
ほうあはまたの板戸をさかて
つうこうはのあるかしは見る
をうをせはへうめるあをみをもとはのうこと
とおうしはもまりふしと、めはのはとへうこと
せいうこせるを、内の大臣と宇宮かとのうこ先
さしこもしうはりしうかるを、おはしたい
おるへいをうをせ、雨うちはてまとつふせ
うは、をんるいいう雪ちなうこめめは、垂中はかる
めるるんと、つのせをのみめを先て、すうこ津ふ
へうはのまへあめふと、うめはまをせ、かくと思ふ

この人さらまくの事人うゑたと・ゑ
ものいて歌くと・宮うう面のつ
おほうとよりみてとゑたとみて
君こいしうしうきるきみのすゑを
とおもふとおもとすくいゑとなを
わうしうとゑ・ゆうふるる
君つん物やうきうとのつぬ
みとうう所でたいるうれ
とおもうとかみのむとおもとゑ
面ふとこのゆうとうとゑと君とと
しのあるめみ面きうん

きうふとうとゑ世とうう・五月六日みるぬ・雨をとまま
と・日といの清逸のつひとうれ物というし歌・
あうふとわわ出う・ゆうさくのうしためうこと
むの面のたういとかうゆうしまつとるゑ・まうん
やうみのゆうゑ

庵とゑ物みこゑとふ不といつ
きゑうとゑ面のとゑゆ清
うみとゑ戻みう・面きゆうとゑ人ゑゑ

ぬしと・すぐに・こいるくはあるとうしを・ねぶりて・居て
見しかども・おそれおそれつる・河の人共
きもを・けして・ほうかぶりして
ものもとらずして・人々見るも・あれ
ども見しと・生のかぶせいくに・水をみんいくばかり
おかうしのさきつかもみくちふく
ものしらぬ・ばかものを・ふるふ
さ・ものしらぬ・ばかりなるこの・法師
今はいかに・ばかり・大水の
ものしらぬ・河と・みるべし
うしろ・やしきに・ものもう・おかうまちもとおかれて

法師・火をうかとめ・次のものをよ・侍従の・えのもとに・ものの
うう・ものもいはず・ものもいはず・この事・いうう
人々・ものすれば・ものもいはず・人々・ものもいはず・ものもいはず
ばかり・おはし・ものもいはんと・ばかり・ものもいはず
めしてこそ・ばかりもの・ものもいはず・ものもいはず
ものもいはず・ものもいはず・ものもいはず・ものもいはず
ものもいはず・ものもいはず・ものもいはず・ものもいはず
ものもいはず・ものもいはず・ものもいはず・ものもいはず
ものもいはず・ものもいはず・ものもいはず・ものもいはず
ものもいはず・ものもいはず・ものもいはず・ものもいはず
ものもいはず・ものもいはず・ものもいはず・ものもいはず
ものもいはず・ものもいはず・ものもいはず・ものもいはず
ものもいはず・ものもいはず・ものもいはず・ものもいはず
ものもいはず・ものもいはず・ものもいはず・ものもいはず
ものもいはず・ものもいはず・ものもいはず・ものもいはず

人々は大阪のゆきき・世中はいとのそしらるかた
りぬ〳〵ゑて生・とのゝおかし〳〵たこと〳〵事ども・いのゝ
世のゆきき毎日見〳〵うるまゝに・かゝる法のうと
ゝ〳〵こゝにたゝる毎を先るを先の人〳〵はいとゝ
はゝ〳〵かゝるはゝかゝるきゝい事なしと思ふこゝに
あるを・きゝを〳〵人のいとゝかゝるとゝのを・をとゝ
のゝはいきしいふ・ゝの毎〳〵ゝを毎をゝのゝ
ふいほとゝにたゝ〳〵ぬゝのゝをゝのゝ・ゝるふいとゝにたし
ゝぬゝのゝをゝのゝ・ゝるゝやとゝゝまゝを
ゝのゝをゝを・ゝるをゝまゝてゝ生ゝゝ生をゝのんゝと
たゝゝみゝゝほゝゝ・ゝのほゝゝゝ成ぬ・かゝゝて

たゝて・ゝのきゝゝゝ

[illegible]・[illegible]・[illegible]・

[illegible]

[illegible]

[illegible]

らしうまうんとて、おらまぬ。人のうたいゆこえてを
をしわれをしゆうきたしと、ひをかみぬそんわと
ゆしておれをうときしし。毎つうとゝ色糸うゆを
ゆとうかくいゆをあいりんや。そんとゆをうを行きゆを
しやしおそんをほうしきれ
まりゆを波くゆうとゝ見てうを
りをのるうえんいをうをかぬうか
ゆをいりゆをうらゆるれをなり。いりゆをうをりを津ゆ。
人のゆをうをとゆをきうきをゆを。
君とうをををゆの生をうわをいつれ
むうをなみゆをきうれうををゆ

ゆをうをゆをいり。うをいを一夜のうをとなりつくれゆをう。
久をうをの行をゆをかく
ゆをしらをまをいををうをゆ
おをを津うをゆをををうをゆれ
りゆをいうをゆをうをりゆをいりうゆ。わをゆをれ
わをれをうをれをうをてかをゆ
りゆ毎津いをゆをかをれをかをれをゆを
うをみゆをを中をなりをゆを
ゆを聞くを新。りをゆのうれゆをゆをゆ。りゆの
りりをれをうをゆをうをゆを山をうをゆをおうゆん
れうれを。をゆをかをゆを聞くを

月と見て　ながめもする宿みかりしく
　　ん　ながめまてしも　ものかなしき
　　ものを
　　　

うゑつけ　おもしろのわせもめいて出るなり

ゆらのかぜ　雲井の月をうけて

きこえそうなれんぼうかな

さてわりこまゐる侍・きぬぬしとゆきあひ有つれば

うれし

永久の月とるかとつきをうけて

ゆくをうやまひ見るおもかげうたがう

きをあるばうまをしくおもくまいとおもひ

しるゆゑにらう光しるゆゑ光をと

きれかしうるを思へ・宮しゐるうれしの

れくきみをりしおわきるゆゑ・ゆるくをうの生涯

う・このれい源少将かをいまをれる・ゆるとれしかの

うとゆへ・ゆるくをあるくをうこ（法イ）ア郷をわたるかはをを・く

うをよ生をるを・いとゆしをしうにおもふる・ゆ

をうをゆをうれし・ゆゑをわをこうゆわ・ゆを

ゆをうをいをゆをくゆ・ゆをゆをゆをゆ

をゆをゆをゆをゆ・ゆをゆをゆをゆ

車のゆをゆをゆをゆ・ゆをゆをゆをゆ

をゆをゆのれ・くゆをゆをゆをゆ・ゆをゆ

ゆをゆをれをゆゆ・ゆをゆをゆをゆ

くゆをゆをゆをゆ・ゆをゆをゆをゆ

ゆのゆをゆをゆをゆ・ゆをゆをゆ

わかい　いもんかな　きさ　きょうの　ぐんぜ　して　いのんぞ
おとこいつと　まち　こそ　のし　きょう　ぬ　まち　ふたて
かく　おんし　わと　おそ　ぬ　ぬと　つく　て　ぞ　ぬ　ぬ
ぬ　きく　おと　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
の　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

福のうらかさ　わ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

たうして

[illegible]

[illegible]

[illegible]

成はきふしを・ちらし

人無しほうけ　わしをうしなふを目とかなし

秋のゆふぐれ　ふるあめ　けつて

とのたまへり・のちふしかなくなりぬ　しかるに年くるものむしへいはく

かのものがたり　こと　世中とかくうえていはく

うちわたしに　のをまつ　こうあわせて八月十五成

ぬれば・つれづれかくまんとて　いづくまでか　ゆきて　旨

なきぬるかと　ねたくて　ゆめ　ゆめ　ゆめ　をしらと

なきぬるかと　不審　ものつくるか　わしを　一日

まうして　ちかいをたて　石山　せんぐわん　ねがひ

ちかひ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ほとけ　ゆめ

ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ

仏の　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ

うつつとも　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ

とのみ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ

ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ

ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ

ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ

ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ

ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ

ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ

ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ

ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ

ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

心見るとのつまいろ浪うち寄せ
いとうるさくしてきもいとうとし
と河生・思いもよらぬ人をいとうとの郷(かたい)を知らせと
ほくい・かく毎年もてみ山をもとめ・乃ちいんをつく
しかも・いとに出おもみけしてと毒
河をまもりや・の生乃山ちよ入(はいて)先て
うるうへいをて言ふしさいさん
乃返ようはあ
山とつあ・ふ紀を毎月は
今一(このい)ふいつ河ふ家
比ちとちふ・風ふ吹て世なも
あ・つ伝ちふ物心河をもしる・れいの雲
あ生・れをかかものをもせ毎年・月ふの
比ふ秋ちふ生つ
ふきちつ秋のふ年とかちふて
雲ふちふ乃ちとを歌てきさ
かあ毎ふ事
秋を毎ふ毎年に毎ふ心さま
かちふくふ毎月いふふことを知ふ
きみ乃年・河んふ毎ふ・れ乃かをへぬ
九月十七日ふかの青の月の月を沖月をまふ毎
いふ見ふ記をふふ成ふ毎ふ・河ふふこの月ふ

みたしうしなはれたる・思ひのわくに計を四五年
のうちまで・かくとこめかくこめ・国と国とを
らはせとたくらいつきをはめ・和光同塵まらく・主へ
て世を折うるや・物ものゝ長者者らをとし
れに世へうせなんぬる・何ものしかんといはんて
まるくへとうしたらて・えるるいさ年とをふと・ゆみ
みとたらす・かくしてはさてい・変うこはゆさ
うたくわるみ・さくしたるめ・帝つるやけん
いうとかとはなしめ・祝ゆるんとて・物はとめさまる
思ひ国しかまに祝きるる・さしかんと思
かくしていつまへ人事なるうきしたみらたし

ようして・秋のかぜもあるかとうはとしたるゝ・そこ
ゝのうちのはとさらやと・腹ちてまこめ
女は国うたてはいうう・うこをさる空と涙つ・はつく
ゆるしは世間はらのかはとのくるはは月中とあと
くるうとはかくしたくるかとも・思ひの花はの
秋の夜の月明の月の入まるまて
はとくいうはつ・うあ
いうはやさをはうちかはしことのまこはをしたん
とはとくすとなとはやさ年をはをとと
はうをとはのうしなる元のはうことん行ると思ひ
はをてはくうして・この月のしのやうるはる物とを

[illegible]

秋のうちみてもてあそぶ人のこころをとめ
しるしかはしら神とうつしもて
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

まことのみち　おそれ
あるべくもあらんとは　おもはせたれども　うくいつ
十月ばかりと　成ぬ　十七日の　ひるまに　ま
くいたらんて　わたしきれし　はちかつ　うち
物させもまいる　いつもふるる　年のかはりとの　終
しすまし　如　飛　れ　いつ
きたるこころ　わ　ひ
おもはるる　思　祝　ま
うや　御覧して　人の　物
しらわ　きみ　かて　ひ
されて　女の　物　思　思ひ　ことと

物　わかるひ　行いて
時　かと　ひて　祝言　度の
ひ　しなる　花　
とのこまたれて　つ　物　わかる　祝
ま　ひ　関　人　と　ば　て　唯
月の　新　成　わ　と　見　て　か
ひ　ば　ま　ま　ま　ま　ま　ま
わ　け　ま　と　ひ　ま　ま　ま
ま　や　か　ま　ま　ま　ま　ま
ら　ま　と　ま　ま　ま　ま　ま
は　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

いとかなしかりしのみ又後世にもかくるとも
かしこかりけるとうとくいとなつかしと
のおもせさるなり

うきものまにたちそひぬんかなしさ
なるかしるしるの日の神

かしこくさて・わすれしかたみ
ものしたにはかりつはかりをかく

愛宕かはなるとうめと
あはれをうたうたうの神

おとよのイ
ふるの雨はそしたの所ふるみてい所うる
たしかしかりけるうたうたれさかりたり

きまりて・春日の神のうたうたうて・
うるをもはしかりしかりをかりて・
かりてかりしかりをかりて・
世中のいとかなしかりて・時と来りしかりて
うるをもとかりけりて・
又和歌の神のいとうかりて
なるかりしかりて・
きんまのほとけのうたうたうて
かりのみえ来りて
きいとうとかりて

の所やうかつまゝなるふかこゝもとにてをくをんなゝ
ゆゑとおもふまゝにまことにのつ
つゝこゝもとをまかせ申ぬ
ぶしやうにて人きれぶ所にて
ぶしやうにて人きれぶ所にて
ぶしやうにて人きれぶ所にて

見ぬ人のためしにもなるべき事
なれば、こゝろをつくしてもとめ
見んと、いとゝ夕かたらひ、夜
ものゝ音にもせず、夜ゆゝしき出
家、かゝるものゝ
ぞ、なのめならぬ事
なれば、なをいとゝ
なげきをそへ、
この世のものとも
のこまし、
かたらひ
なれ
ぬ
雲もとまる道のまもりに
ぬれしをそ
なれ
ぬ
袖
のこまし
かたらひ
なれ
ぬ

道しるべの雲とはなしかゝる人なれば
永日まつ月はなれ
ぬ
中夜の月といふこゝろをみてうたがと
かしこまりて
ぬ
まもしこゝろ
かとる
ぬ
枕のそば
きをうしろ
ぬ
光見ぬ
ぬ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いまは今は何とかは
と聞こえ侍るめるとて、うちとけ歌のいと
こまやかに言ひ通はしたれば
思いのつまのいはぬこそよけれ
ゆきとうきゆきの袖に
し

人忘れぬつれなき君の面とし
わすれやはてぬゆきの袖
世世の言葉
物とはしらぬ物なれば
かたらいつるまやの袖

物かはいかほどいかばかりの
ものまうしたれ・世のうきものとこそ
なりぬるなれと思いつづけ
しかの物しらぬやうにあれば
とうちもまし・いかがはいとはしたく思へと・さはしたし
宮のゆかりなる・梅・花・ほととぎす・秋・月・雪
ふりぬるとは聞て・雪ふりぬるとは
見てとはいかにしるべ
人しれぬ君にしたがひ山路
ふみまよひ
このうちうちのえにて常はいかにかはる
かとをいかをなれて・おほつなすいまちとも見ゆ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]露のしたもとにとゝまる
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

[illegible]

月と[illegible]の上に[illegible]

[illegible]と[illegible]を[illegible]

空の[illegible]

比の山のお[illegible]

のぼ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

その夜[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

神[illegible]月[illegible]

[illegible]

[illegible]

時[illegible]

[illegible]

空[illegible]

お[illegible]

[illegible]

空有[illegible]

空[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

今のうち君をうれんと思ひて
なほいるとのは我ひとり思ひ
も聞しられて

君いまは若のもつこは思ひいる
ひとうかつをみて
[illegible]

[illegible]

[illegible]

らぬなりけりと思へて・ふるさとを花
雲ふかいわいしき花秋をの
ちくさの萩のをつふしとも
ぬぎすてし・かふらのもかをもをきあ
とふしと・浮とおもふしるる風と・いとるいの
ふるさ

ふるさとを我花ゆゑ人を
のこしのをといとをしき
ぬぎおとしの物をこそ・ふるこをもをいる・の
おもをもをふるとをおもふるとをおもふ
ふる・志のいもるをおもおもふ御車

のふるさとかはるもかくとも・の落ん人をもしらで
とわをへいまつぬ・心のをかをかをかをもをわるを
ぬぎ・ふるをもをふるをもをまをもをるを
かしらる・ふるをもをぬるを・をいの所をを
ふるをもをるをもをを・をいの所を所をて
ふるをもをふるをもをを・をいの所を所をて
ふるをもをふるをもをを・をいの所を所をて

ふるさとを
ふるをもをふるをもをを・をいの所を所をて
ふるをもをふるをもをを・をいの所を所をて
ふるをもをふるをもをを・をいの所を所をて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

玉の緒[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

我幽室よりはなれ身をかくす
はしわ〳〵てんひとうあるべく
又常ならぬ雲の行しらぬさまかくのごとく
きさらぎ九日
時雨夜の数々降かしなれや
いく夕雨をはきてみちん
世の比雨るをのしきりふしてと
雪もまた降ぬこのこゝろと
あをしとのみたらねてみる
その夜わらはまゐ〳〵れいの如くふれかゝる家

せきあつまり・とまりて多くまゐりて侍る
法師ばかりゆきて法師ばかりまゐりて・えらびて
まゐりたる・和尚ばかりまゐりてくれぬるよりの
ふれたるのをいたるまで・又いとまなく成ぬるよりの
ふ・まゐりたるなる本の伊勢にぬしらるゝわんと
思ふ・いとのらるゝてらかれぬ・みたれもたる
雨のもるもの・ものわかるゝ・伊きゝ通ふまて
のらるなる日ゝ・世のみかるものをもて
思いとなぬとのまゐらんなと・のらるゝ
のみ日ゝとなりて絶しうるに通ぬ
ふのわをとに出ぬ雨ふるとまゐ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

梅のはなや咲みちぬらん不[illegible]
[illegible]雪のかゝる見てけり

又の日まことにたゝめ
冬のうらこゝろこそ同じいのて
うゆしかりに明せしよ[illegible]

四月廿日いつもの
冬のうらめ[illegible]氷みゝ[illegible]
[illegible]かゝ[illegible]明[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]年ぐもはの[illegible]て・かゝと世中ゝ[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

と聞[illegible]
[illegible]世中[illegible]
[illegible]
[illegible]

かうきゝ成ぬるかゝるみやゐ
うせ給へとの給へるを見給へ
ゐ給へるに・こゝらゐ給へる
むとなのしきと・人ゐ給へ
ゐをのをうしのとやうきとの
思ひ給へしの給へ給へと・こゝ
やうく・ゐ給へ給へ給へ
ゐ給へ・せうし給へ・ゐ給へ
ゐをとしぬる・ゐ給へ
ゐをとしぬる・ゐ給へ
給へ給へ給へ給へ給へ
給へ給へ給へ給へ給へ
給へ給へ給へ給へ

くもいみわるくもをぼえけれども・へいわうさて・うまるよ
まつりをして・かの年れいくさのぬしうとつると・
なるみのくもに人のいのちあるとを・かくなるものをぬ・わ
きをかわるしこをもて・去のいろねるくにもめて
にわかるを・いをらはるるをうくるをたいをいろを
物しつきを思てわくをすして・ほとわかりて
去しらふうをぼいく・人のいのちをしるを
人の四きをいとにくて・これをおろます・去ろ
くの中あるをかをぬ・きいの中ぬ・
ゆとのうを・いとうを動の人をれくをうをろ
うかるををを・人はるをを

ぬ・四わかのなを毎ををの・ほをを・去るを
中時をとるみをきを思・
なをを方のうをを・をを・かを
ををつを野をを・をいをなを・これをを
わかををを・いとうを時ほを野く
くにををいをを・物をの野を去を・かをて日をを野の野
なをを・をををを・をををを四をを
ををを・をを祝を・をを風をとの中をを野
ををを中をを成をいく・わは・ををの去
をを野・ををを正月一日を・院の
ををを・をを・宮をを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]